

令和7年度第1回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 令和7年7月7日（月）13:00～15:00

2 場 所 福知山公立大学4号館4階会議室

3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員長、大久保職務代理 (会場参加) 菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	田村室長、森下次長、妹尾係長、塩見主査、吉田職員
福知山公立 大学	川添理事長兼学長、西田副学長、倉田副学長、井上学部長、池野学部長、倉 本研究科長、山田教授、河合教授、畠中教授 辻事務局長、荻野次長、大江課長、小原課長、神代課長補佐、竹元課長補佐、 杉本主事

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題（1）】 令和6年度業務の実績に関する評価方針及び実績評価にかかるスケジュールについて	事務局から【資料1-1】から【資料1-4】により説明。
2	【議題（2）】 令和6年度業務実績評価について	福知山公立大学から資料により説明。 ■ 今後、評価委員で評価作業を進め、8月7日の第3回評価委員会で、委員会としての評価を決定する。
3	【議題（2）】 意見交換・質疑等	(委員からの主な意見) ■ 非常に多岐にわたる分野に対してきっちりと活動をされており、取組を評価する。 ■ 目標と成果の記載方法について、定量的となるように努力してほしい。 ■ 次期中期計画期間について、国立大学法人の例を参考に検討を始めるべきである。 Q. 今回の自己評価の中で、さらに良い評価をしても良いと感じられる、特に評価できる項目、活動が足りなかったと評価している項目があれば教えてほしい。 A. 理由をしっかりと確認したうえで自己評価をしており、提出した評価のとおりである。
4	【報告事項】	福知山公立大学から資料により説明。

令和6年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表等について	
-----------------------------	--

5 協議要旨

(1) 議題1：令和6年度業務の実績に関する評価方針及び実績評価にかかるスケジュールについて

(事務局)

【資料1-1】から【資料1-4】、【資料3-3】により説明。

議題2：令和6年度業務実績評価について

(法人)

資料により説明。

(委員)

- 今年は4としている評価がたくさんあり、大学の立場からして「頑張った」というメッセージだと受け取った。
現在、以前5段階評価だったものを4段階評価として実施しているが、今回の評価の中で、4の中でも5段階評価としたときに5に近いものがあれば教えていただきたい。また、2の自己評価がなかったが、3と自己評価したもののなかで、少し目標まで到達できなかったようなものがあれば教えていただきたい。
- 意見・要望であるが、年度計画が何を何回するとか数値があれば比較して評価できるが、何かをすることで貢献する、育成するというような、付加価値がついている年度評価について、業務実績のところでそこまで踏み込んで書いてないところがある。目標を一步踏み込んで書いていただくと評価しやすいという感想である。
- 地元市民としては、福知山市で非常にたくさんの取組みをされていることを嬉しく思っている。

(法人)

⇒評価の中身については4の中、あるいは3の中でも様々であることは言うまでもない。今年度の評価の特徴は2と評価したものが1項目もないということで、我々としては目標に達しなかったものは1つもないと考えており、これが妥当かどうかは評価委員の皆さまに判断いただきたい。

(法人)

⇒大学内での評価とりまとめの際に、なぜ3と評価するのか、なぜ4と評価するのか、という理由書はきっちり確認しており、5があれば5とするような4は無いと考えている。「貢献する」「教育する」というような価値の軸が入っている項目については、世間の相場をこちらで想定して、それを格段に超えたと自信をもって言えるものを4と評価し、普通の貢献であれば3とする、という基準で評価を実施した。目標の書き方については計画を立てる段階で統制できなかった部分もあり「貢献する」というようなまとめ方になっている計画もある。

(委員)

- 評価をする中で、この項目は4とすべきじゃないか、あるいは2とすべきだ、というような議論をこれから実施するが、質問票のなかでエビデンスのデータが欲しいという

要望が出てくるかもしれない。

(委員)

- 私からは感想のようなものになるが、今朝もニュースを見ていると、福知山公立大学の教員が紹介されていた。地元の新聞を見ているとほぼ毎日、福知山公立大学に関する記事が掲載されている。また、昨日開催された新町商店街でのイベントも公立大学の学生が主体となって運営されているということだった。このように、福知山公立大学やその学生の地域社会貢献を本当によく耳にする、目にするようになってきている。このようにだんだん福知山公立大学の存在が地域に浸透しているのではないかと思う。先ほど、地元地域からの進学が20%に満たないという話があったが、このような活動を続けられればいずれ達成するのではないかと思う。

(委員)

- マスコミ露出が多いということは素晴らしいと思うので、ぜひ継続していただきたい。

(委員)

- 教職課程の申請をされているということは非常に心強いと感じている。今現在、京都府北部の高校は公立も私立もとにかく人材が足りない状況である。その中でも特に理系教員が見つからないというのが共通の悩みとなっている。これはおそらく、高校だけでなく中学も同様であると思う。この状況の中で人材育成をする活動をされていることは非常に心強い。
- 地元からの進学者が20%未満であるという点について。福知山高等学校との連携協定を結ばれたという話があったが、今後、文理科を持っている公立高校と積極的に高大連携を結んでいけば、地元高校からの進学も増えるのではないかと思う。ぜひ広げていただきたいと思う。

(委員)

- 高大連携については、特に京都府北部エリアで積極的に進めていただきたいと思う。

(法人)

⇒教職課程に対する地元からの期待は私も非常に強く感じているが、仮に課程認定されても教員免許を持った卒業生は4年経たないと出てこない。

今はまだ検討段階であるが、例えば理科の教員免許を持っている現任教員が、追加的に数学・情報の免許を取れるような制度を設けたほうが良いのではないかと、という議論は始めている。地元の困りごとに対して本学でお手伝いできることはないか考えたい。

(法人)

⇒まだ申請中で課程認定を得ていないので、答えを得るまでは慎重にと考えている。

(委員)

- 資料2であった昨年度の評価に対する対応については、極めて誠実に、細やかに資料に落とし込まれており評価したい。
- 規模が大きい大学にも関わらず、これだけ細やかにすべてのことを網羅的に取組まれ、成果を上げられていることにたいして、学長・理事長のリーダーシップと、教職員の皆さまのご努力に心から敬意を表す。
- 教員組織として「基盤教育院」を作られたこともなかなか良い取組であると評価する。
- 地元の期待に応える形で情報と数学の教職課程の設置認可に取組まれたこと、反対に公民の教職課程設置には取り組まない判断をされたこと、これは英断であったと評価する。
- 社会人の大学院修学について、長期履修制度を設けて学べるようにする取り組みは、志願には結びつかれていないが素晴らしい試みと思う。
- 開学以来、伝統的に突出した成果を上げられている地域貢献は、教育・研究・社会貢献すべてに関わる。産・学、行政、教育、小中高、市民、防災などやSTL助成金を使った

学生さんの活躍も評価する。

- 地元のシンボリックな進学校である福知山高等学校と連携されたことも、今後必ず志願に結びつくのではないかと思う。
- 経営面ではクラウドファンディングやネーミングライツにも取り組まれて実績を上げられていることを評価したい。
- 交流協定を結ばれたが実際の学生交換がなかなか上手くいっていないことについて、金額的なこともあるのでゆっくり進められたら良いと思う。
- 公立大学法人にとっては困難な課題であるセキュリティやコンプライアンス、BCPなどについても、避けて真面目に取り組まれて着実に成果を残されていることも評価したい。
- 教員評価について、処遇への反映は行われていないが、昇進等へ加味する形で導入されたということで評価している。
今までお話ししたことすべてについて真面目に一生懸命取組まれたことが報告書に表れていると思った。
- 少し厳しい話をするが、今回の評価は4がたくさんついている。これは成果としてその通りだというふうに思うが、4という評価の基準は「年度計画を上回って実施している」と書いてある。何が何をもって年度計画を上回ったのかということ、私たち評価委員会は厳しい目で見、市民等への説明責任を果たさないといけない。
突出したものは大項目評価での記述等ではっきり、列挙して目立つようにしたいが、年度計画の策定のときに難しいのかなと少し疑問に感じた。
- まだ中期計画期間の折り返しを迎えてないところだが、中期計画期間について地独法の改正で年度計画が廃止になっており、国立大学法人では令和5年から中期計画評価の指標を設定するという新しい制度に移っている。
公立大学でも新潟県立や東京都立など、多くのところで新しい制度に移っている。そろそろ福知山も国立大学協会が大綱として出している評価指標の設定などについてマニュアル化しているものを参考に、検討を始める必要があると思う。
- 次年度以降、年度計画でできるだけ定量的に出せるものは出していただき、何をもってどう乗り越えたか、目標を上回ったのか、ということが評価しやすいようなことにしていきたいなと思います。
- 個別のことについてはまた質問票として後日提出させていただく。

(法人)

⇒指標の設定に係る意見については以前から承知しており、年度計画そのものを定量的な目標に変えた部分もある。定量的な目標となっていない部分についても、例えばA事業をやるとしていたところ、合わせてB事業も実施できた場合は目標を超えたと評価している。目標1つに対して2つできたから4としたという意味では、ある意味定量的であるとも考えられる。

年度計画の中身の書き方についてはもう一度検討したいと思うし、次期中期目標期間にどうするかという点についても研究中である。

(法人)

⇒今ご指摘いただいたことについては内部で着々と進めており、DXを進めているということと関係している。DXを進めることによってさまざまな指標をタイムリーに獲得して、今の状況はどうなっているのか、それからどこを改善すべきなのかという方向性を把握しようとしている。

あくまでも予備的な見解ではあるが、例えば定員充足率、志願率、競争的資金の獲得といった項目については飽和状態にあると自己評価している。例えば、科研費の採択率が30%弱くらいであるということに対して、これを50%に引き上げるというのは難し

い。それに対して、標準年限卒業率や休学率、退学率というのはいいい指標だと思っており、改善すべき点だと自己評価している。どうやって指標的な目標を立てていくのか、その目標を達成するためにどういったプランを立てるのかということは今悩んでいるところである。

(委員)

- 大変いろんなご努力をされているというのは全く同感でございまして、今のDXを推進されていく中で、データをきちんと見ていきたいと思う。
- 私もいくつか質問したいことがあるが、これは質問票に書かせていただきたいと思う。
- 福知山公立大学ではいち早くAIやメタバースにも取組まれていて、まさに今の新しい時代の人材を育成するための仕掛け、そういったものが着々と準備されつつあるなと感じている。
- 今後のことについて、やはり年次評価で逐一チェックをして議論をするというのは非常にいい機会ではあるが、次期計画期間では数年に1回というような状況になると、フワッとした話はどうしてもよくなってしまって、数字だけが歩いていくというようなこともできてしまうので、目標値の作り方はこれからすごく重要なポイントになってこようかと思う。こういったデータ構築をきちんとやっていくことと、AIをいかにうまく使うのが重要だと思う。

(2) 報告事項：令和6年度財務諸表等について

(法人)

資料により説明。

(委員)

- 決算内容については評価委員会で評価すべき内容ではなく、ここで報告を受けたということになるが、委員から意見はないか。

(委員)

- よく見ている企業会計と違うので何とも言えないが、感想として、過年度に受入れた寄贈図書について金額的にこんなにも増えるのは驚いた。

(委員)

- 決算概要の利益処分案について教えていただきたいが、資金の裏付けがない会計上の収支45,302千円という部分について。この資金の裏付けがない会計上の利益っていうのは具体的にはどういう意味なのか。

(法人)

⇒現金での収入が実際に発生していないものである。例えば、現物寄附であるとか、資産減価償却分の補助金等の収益、前期損益修正益等である。

例えば、資産が増えたときに減価償却費は何年度かに分けて計上するが、受けたときの収益は単年度で発生するため、どうしても会計上の利益が増えるということが起こる。

(委員)

- それらにより発生した現金裏付けがない利益額を積立金とするという理解でよいか。
- 積立金と別に、目的積立金として申請される49,000千円については、現金や有形の資産として存在していると理解して良いか。

(法人)

⇒そうである。積立金は赤字が発生したときに充てるという整理になる。目的積立金は現金が伴うものであり、後年度のプロジェクト経費や施設改修の費用として使わせていた

だくという申請を福知山市に対して行うというものである。

(委員)

- 特に質問なし。

(委員)

- 特に質問なし。

(委員)

- 要するに、損益計算でいくと黒字が出たが、これについては経営努力で黒字が生み出された部分であり、今後の教育等々の改善、教育研究の質の向上及び組織運営の改善のために積立金として使いたいということだという理解でよいか。

(法人)

⇒その理解で間違いない。